



み言葉は

いのちの言葉

1 コリント 3, 22-23

**一切はあなたがたのもの、
あなたがたはキリストのもの、
キリストは神のものなのです。**

これは、神は私たちと共におられる、というメッセージです。私たちは神の子、神に属する存在なのです。神は父親のように、誰も何も欠かすことがないように、一人ひとりの面倒を見て下さり、あふれるほどの愛と賜物を与えて下さいます。

信頼と感謝

「一切はあなたがたのもの」という神の限りない贈り物に対して、私たちに求められるのは感謝の心です。

なぜもっと周りに目を向け、どれだけ善いもの、美しいものに囲まれているのか知ろうとしないのでしょうか。なぜ、日々神が下さるものに感謝しようとしませんか。

私たちの責任

「一切はあなたがたのもの」ということには責任も伴います。

私たちに委ねられているこの世界と一人ひとりの人間に対し、思いやり、優しさ、配慮が必要です。ですから、イエスが私たちにされるように心にくばることが、求められています。

具体的な態度をしめして

相手と一つになる: 相手を生きること

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きましょう。人々の嘆きや分裂、苦しみや受ける暴力を、自分のものとして迎え入れ、共に担い、愛に変えていくところまで寄り添いましょう。

切って折ります



私たちの経験



いのちです

アレ 16 歳

ターンを...ともに分かち合っ!

ここ何年か、競泳の練習にはげんでいます。全部で100人ほどの少年たちがいます。今ではぼくたちはチームとして一団となって一致できるよう成長しました。普通水泳は個人競技なので、個人主義てきになる傾向があるので、これはめずらしいことです。

いのちの言葉を読むたびに心に問いかけることは、毎日の生活のなかでどう生きたらいいか、すぐチームのことを考えます。イエスのことを話したり、聖書を読んだりはしませんが、私たちの間で、兄弟愛を生きることができるからです。

毎日、午後にプールの脱衣所に入るとき、その時考えていたことを全部おいて、チームの仲間のためにいいことをして、助けるように努力します。

ある経験をしたのですが、国レベルの競技のときに、ひとりがターンを間違えてしまいました。そのために彼は、一番最後で資格なしでゴールしたので、ひどく残念なことでした。

彼がぼくの近くを通り過ぎた時、こういう思いがずっとよぎりました。「彼の中にイエスがいる。そのイエスは苦しんでいて、ぼくは彼を愛することができる。」

ぼくは、彼にほほえみかけ、彼を元気づけ、安心するように努めました。そのために、午後いっぱいかかりました。「アレ、ありがとう。君はすごいね。」と言われた時、ぼくはとてもうれしくなりました。彼の苦しみを自分のものにするのができたからです。

君もこんな経験をしたことがある?